

～株式投資で勝つ方法～ ―経済動向編―

livedoor VS フジテレビに注目！（全 13 回）

2005/07/01 太田寿一

第 11 回 授業料としてもらったお金で、車を買うのと同じ？

1996 年 6 月、ソフトバンクはオーストラリアのニュースコーポレーション社と合併会社を設立してテレビ朝日を買収しようと画策しました。当時テレビ朝日株の 21.4%を所有し大株主であった旺文社メディアを、旺文社から 417 億円で取得したのです。

その頃のソフトバンクはアメリカの放送局を買収するなどして、メディア事業への本格参戦を考えていたのです。それゆえ日本のテレビ局にも食指が動くのは当然ですが、当時のテレビ朝日は非上場企業であり、普通その株を入手するのは非常に困難でした。しかしソフトバンクがこの株を手に入れることが出来たのは買い取り先であった旺文社に問題があったからです。

当時の旺文社は、業績が芳しくなく経営的に非常に苦しい立場にありました。そこで彼らが考えたのが、優良資産であるテレビ朝日株の売却でした。当初は朝日新聞や東映などに売却を打診しましたが、旺文社の言い値があまりにも高額すぎてこの目論見は失敗します。そこで取り敢えず旺文社メディアという子会社を設立して、そこにテレビ朝日株を移転させたのです。そしてこのテレビ朝日株に目をつけたのがソフトバンクでした。

ソフトバンクは上場以来、買収を繰り返して時価総額を膨らませていました。具体的には、好ましい買収計画・事業計画を記者会見のような派手な場所で公表して株価を吊り上げ、そして増資を行って資金を調達するというやり方で、「記者発表経営」と揶揄されていたものでした。そのため一時はトヨタ以上の時価総額があったときもありましたが、これらの計画がマトモにうまくいった例はほとんどなく、現在の時価総額は全盛期よりもかなり少なくなっています。

当時はソフトバンクのように 400 億円を即座に集められる企業は限られていました。そして証券系コンサルタントが仲介に入って、旺文社はソフトバンクに株式譲渡を行ったのです。この話は事前にテレビ朝日に説明されておらず、発覚したときは相当の衝撃を受けたことは間違いありません。こうしてソフトバンクは幸運にも日本の全国放送の株を大量に保有することが出来たのです。

しかしこれはテレビ朝日の大株主である朝日新聞にとって、敵対的買収以外の何者でもありませんでした。特にメディアを敵に回すと企業ブランドが傷つけられる恐れがありますが、孫社長はそこまで考えていませんでした。同じ仲間であるニュースコーポレーション社はこのことを危惧していて、テレビ朝日株取得に懐疑的でしたが…。加えて自民党通信部会から「日本の情報戦略が確立していない中で、株取得による外資の参入は日本の放送

業界の空洞化を感じる」という意見が出たり、財界からも批判が続出しました。

また当時孫氏はソフトバンクの東証一部上場を考えていて、政財界からの非難があると厳しいだろうということから、テレビ朝日の買収を断念、計画は頓挫します。そしてにっちもさっちも行かなくなったこの事態を收拾したのがフジテレビの日枝会長です。彼が仲介に入ったことで、合併会社が所有するテレビ朝日株を、旺文社から買い取った417億円で朝日新聞に売却、こうして事なきを得たのです。

参考 おじさんの古時計日記 [http://www.geocities.jp/t21\\_belltech/kako/today0503.htm](http://www.geocities.jp/t21_belltech/kako/today0503.htm)  
wind5 #447 [http://www.geocities.jp/baseball\\_wind21/wind5.htm](http://www.geocities.jp/baseball_wind21/wind5.htm)